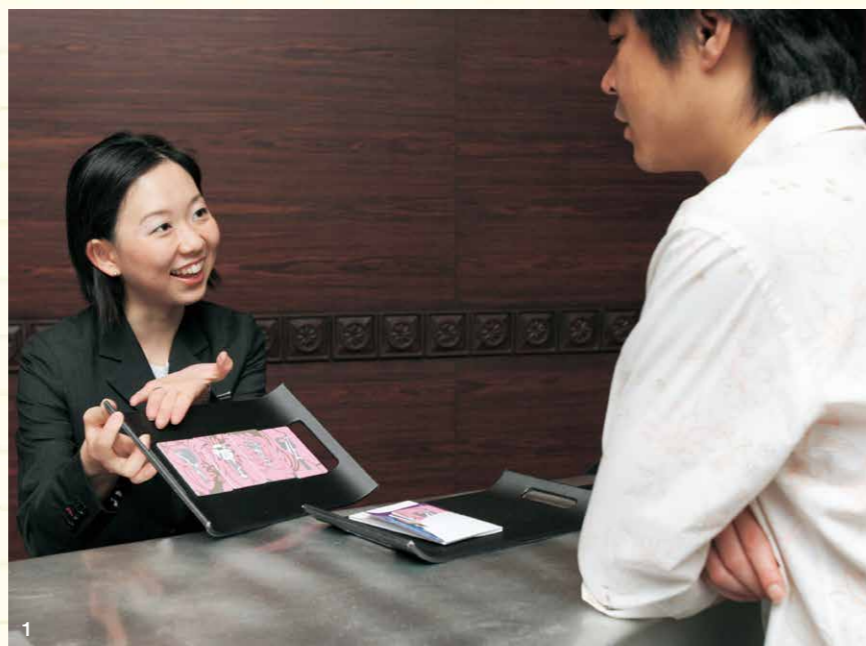


海外のホテルで働きたい！ ホスピタリティを追求してタイに



1日のスケジュール(早番の場合)

- 4:30** 起床。ストレッチ、ヨガなどで体をほぐす
- 6:00** アパートを出る。ホテルまでは徒歩10分ほど。到着後、制服に着替えて社員食堂で朝食。その後、仕事に備えてレポートなどを読む
- 7:00** 勤務開始。ゲストの対応で怒涛のように時間が過ぎていく
- 13:00** 30分休憩。昼食をとる
- 17:00** 退社、帰宅。読書やネット、ヨガなどでリラックス。夕食は主に近所の食堂や屋台などでタイ料理
- 23:00** 就寝

1週間のスケジュール

週休は2日だが定まった曜日ではなく、急に変わったりもする。そのほかタイの祝日も休みをもらえる。シフトは7時、11時、13時の3パターンあるが、現在は7時からの早番を担当することが多い。



休憩時間を利用して タイ語も学習!

4. 「タイ語は発音が難しく、なかなか通じないんです」と悩んでいる最中。タイ語学校に通うことも検討している
5. タイ人スタッフも英語を話せるが、深いコミュニケーションのためにタイ語の勉強は欠かせない

アメリカで鍛えた英語を使い さまざまな国のゲストに対応

1. チェックイン・アウト業務はホテルの仕事の基本。ゲストをリラックスさせる笑顔で迎える
2. ホテルレセプションにて、「タイ人の同僚はみんな優しくて癒やされます」と服部さん
3. 同僚とは仕事が終わった後や休日に、飲みに行くことも多いそうだ



休日には羽を伸ばして、南国タイを思いっきり楽しむ

6. スワンルム・ナイトバザールで友人たちと。バンコクは夜遊びスポットも無数にある
7. バンコクから2時間30分、ビーチリゾートのパタヤにて。常夏のタイで海と太陽を満喫

服部さんが参加したプログラム

株式会社ホスピタリティ トラジャルインターンシップ

トラジャルインターンシップで扱うインターンシップ・プログラムは、1年間で、65万円。高級ホテル以外にも、クルーズや旅行会社など、研修先は多数あり、自分に合った受け入れ先を紹介してもらえる。アジアのホテルの場合、宿泊、食事、おこづかいを提供してくれる受け入れ先がほとんどで、年間の費用は留学やワーキングホリデーの2分の1から3分の1で済むのが特徴だ。興味のある方は、無料説明会や個別カウンセリングを受けてみよう!

☎03-5386-3081(東京) ☎011-207-2888(札幌)
http://www.trajal-internship.jp
プログラム一括資料NO.TRJ2000-40A

「今、必要性を感じているのはタイ語ですね。」
英語の場合、スタッフ同士、お互いセカンドランゲージなので本当に伝えたいことがなかなか伝えられず、もどかしい思いをすることも多いようだ。試用期間も終わった今、タイ語の語学学校へ通うことも考えている。

**落ち込むことがあっても
街を歩けば前向きになれる**

初めてのタイだが「日本にいるときよりも気分が楽で、充実しています」と話すおと、服部さんの表情は明るく、生き生きとしている。厳しいクレームを受けて落ち込むこともあるが、そんなときはバンコクの街を目的地も決めずに歩き

回ると、悩みも消えてまた前向きになれるそうだ。

「タイに来て、やってみたいとずっと思っていたことができています。自己実現ができていますし、タイ人スタッフは優しいし、今はずっとハッピーです。」

インターン期間は来年2月まで。その先は、まだ考えないようにしている。どこで働くか、あと何年かはわからないが、海外にいたいという気持ち、ホテルに携わり続けたいという思いは強いようだ。「少しでもリラックスできる場所作り。それが人生の目標だと思います。生涯かけてホスピタリティの仕事をしていきたいですね。」

満面の笑みでそう語る服部さんの海外飛躍は、これからが本番のようだ。

アメリカでの留学生活を経て憧れ続けたホテルの世界へ

「小学生のころから、世界を見てみたかったんです」という服部さんは、高校生になったら必ず留学すると心に決めていた。17歳のときに夢を実現、アメリカに渡り、そのままラスベガスの大学でホテルマネジメントを専攻する。アルバイトで働いていたホテルに就職するチャンスもあったが、5年8カ月もアメリカ生活を送り、逆に日本が新鮮に思えたことから帰国。

東京のベンチャー企業などではなく働くものの「やっぱり私はホテルで仕事をしたい、それも海外で……」という思いを、どうしても断ち切れなくて」と再び海外生活を決意する。「ル・メリディアン」が新しくバンコクに開業するにあたり、オープニングスタッフを募集していると聞き、タイでのインターンに参加。「ホテルのブランド、そしてオープニン

グにかかわれるという憧れから、タイでのインターンシップを選んだんです。」

ホテルでは、GSA(ゲスト・サービス・エージェント)として、チェックイン・アウト、部屋へのエスコート、キャッシャーやゲストの対応といった仕事に携わる。国際観光都市バンコクには世界中からゲストがやって来るので、英語を駆使しての業務となるが、アメリカで苦労しただけあって支障はない。



バンコク中心部の繁華街に位置する「ル・メリディアン・バンコク」は、2008年にオープンしたばかりのスタイリッシュな5つ星ホテル



Thailand

Text: 室橋裕和 Photo: 嶋健雄

服部紀呂子さん(29歳)

アメリカ留学後、帰国して就職するが、海外で暮らしたい、ホテルの仕事をしたという思いを断ち切れずインターンシップに参加。現在はタイの首都バンコクの高級ホテルで働き、充実した日々を過ごす。

ホテルインターンを選んだワケは?

雑誌の記事で知ったのが きっかけなんです

きっかけはこの雑誌「あの国でこれがやりたい!」なんです。日本で働きながらも、海外のホテルで仕事をしたいという気持ちが抑えられなくなっていったときに読んで、その日のうちに資料請求をし、ホテルインターンシップに参加することを決めました。